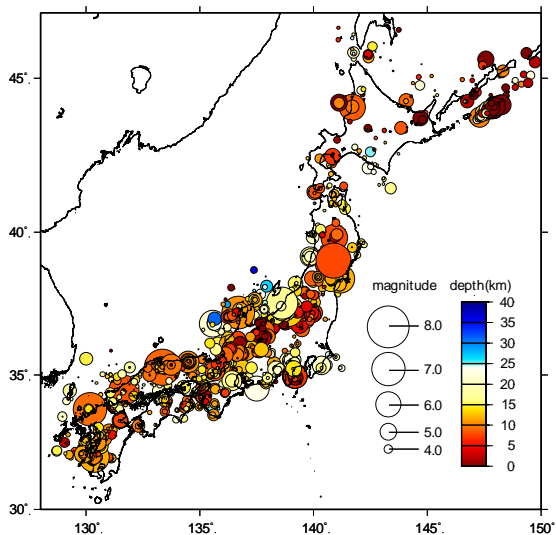
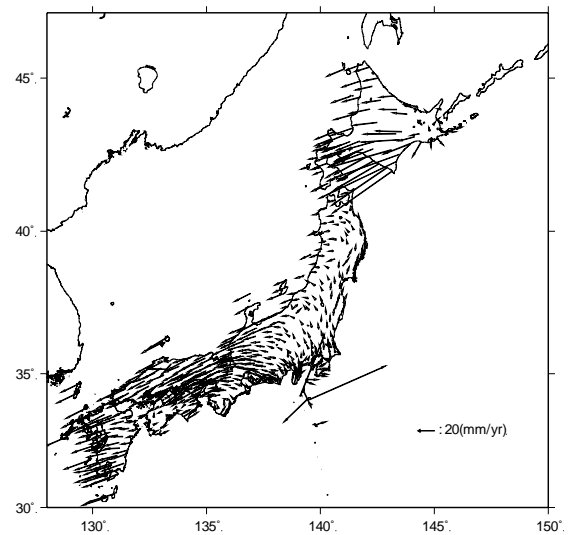


GPS観測データを用いた地盤の歪速度と 内陸地震発生頻度の相関性の考察

中尾 政史 東京大学大学院高田研究室修士課程 (2009年度)



日本全国の地震発生分布



電子基準点平均変位速度

研究の目的

地震調査研究推進本部地震調査委員会(以下地震本部)は、地震ハザードの定量的な評価手法として、「全国を概観した確率論的地震動予測地図」(以下地震ハザードマップ)を2005年から公表している。この地震ハザードマップは、社会的に多方面で利用され、地震被害の軽減のための地震危険度の評価に多くの関心が寄せられている。

一方、近年新潟県中越地震(2004年10月23日、M6.7)、能登半島地震(2007年3月25日、M6.6)、岩手・宮城内陸地震(2008年6月14日、M7.2)など、内陸地殻内地震による被害が相次いで発生したが、地震ハザード解析における地震発生頻度の低い地殻内地震の取り扱いには改善の余地があり、特に「震源を特定できない地震」に関して、地震活動のモデルの高度化や、評価精度のさらなる向上が課題となっている。

本研究では、GPS観測基準点を利用し、地域的な地盤の歪速度を算出し「震源を特定できない地震」の発生頻度予測の可能性について検討を行う。

主な成果

1. 中尾政史, 高田毅士, グーテンベルグ・リヒター式を用いた地震発生の時空間不均質性の考察, 日本建築学会学術講演梗概集 B-1, 2009
2. 中尾政史, 高田毅士, 糸井達哉, GPS観測データを用いた地盤の歪速度と内陸地震発生頻度の相関性の考察, 日本建築学会関東支部2009